

科目名	Webプログラミング演習ⅢB						
科目名(英)							
単位数	12単位	時間数	180時間	担当者	今村 美穂・小井手 武治・手嶋 隆之・西野 直幸		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	前期で学んだSpringフレームワークを利用したWebアプリケーションの基礎知識を基に、実践的なプログラム作成を学ぶ。 総合演習として本格的なWebアプリケーションを作成する。 iCDタスクコード： DV08.1.1,DV08.1.2,DV08.1.3,DV08.1.4,DV08.1.5,DV08.2.1,DV08.2.2,DV08.2.3,DV08.2.4						
授業形式	講義： △	演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		SpringMVCを利用したWebアプリケーションを構築することができる。	
		○		○		データベースと連携したWebアプリケーションを構築することができる。	
		○		○		作成したWebアプリケーションをWebサーバで公開することができる。	
テキスト・教材 参考図書	Spring Framework超入門 やさしくわかるWebアプリ開発(技術評論社)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1-6	前期の復習			総合演習Aを終わらせること		
	7-12	サービス処理			総合演習Aにサービス処理を追加		
	13-18	アプリケーション層処理			総合演習Aにアプリケーション層を追加		
	19-24	フロント処理			CSS、JavaScript追加		
	24-30	CRUD演習1			SELECT処理課題		
	31-36	CRUD演習2			INSERT処理課題、DELET処理課題		
	37-42	CRUD演習3			UPDATE処理課題		
	43-48	総合演習Bキックオフ					
	49-54	総合演習B(開発作業1)			スケジュールの遅延がある場合は、各自で遅延分を作業すること		
	55-60	総合演習B(開発作業2)			スケジュールの遅延がある場合は、各自で遅延分を作業すること		
	61-66	総合演習B(中間レビュー)			中間レビューに備えて進捗を確認しておくこと		
	67-72	総合演習B(開発作業3)			スケジュールの遅延がある場合は、各自で遅延分を作業すること		
	73-78	総合演習B(開発作業4)			スケジュールの遅延がある場合は、各自で遅延分を作業すること		
79-84	総合演習B(開発作業5)			事前に試験項目書を準備しておくこと			
85-90	総合演習B(最終成果発表)			最終成果発表に備えて資料を揃えておくこと			
評価方法	(1)課題を数回実施する。(2)最終成果発表を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート		◎		○		40%
	成果物発表		◎		○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	PCを利用する。 再試験は実施しない。						

科目名	システム開発演習ⅡB						
科目名(英)							
単位数	10単位	時間数	150時間	担当者	手嶋 隆之・今村 美穂・小井手 武治・西野 直幸・松嶋 貴志・木村 浩昌		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	前期に引き続きチームによるアプリケーション開発作業を通じて、企画、設計書作成(画面設計書とデータベース設計書等)から構築までの一貫したプロセスを演習する。						
	iCDタスクコード	DV05.1.1,DV05.1.2,DV05.1.3,DV05.1.4,DV05.2.1,DV05.2.2,DV05.2.5,DV05.5.1,DV05.6.1,DV05.6.1,DV05.6.4					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○		○		チームによる開発作業において、スケジュール、問題管理を行える。	
		○				開発作業の生産物をソース管理ソフトウェアを使用して管理できる。	
		○				納品準備・納品をすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション					
	2~5	開発環境構築、HTML/CSS/JavaScript復習				授業時間内に終わらなかった分は各自終わらせておくこと	
	6~9	企画検討(個人)					
	10	個人企画プレゼン				企画を考えておくこと	
	11~14	企画検討(プロトタイプ作成、設計書作成)					
	15	企画レビュー				レビューまでに、資料を作成しておくこと	
	16~24	イテレーション1					
	25	イテレーション1動作確認会				動作確認の準備をしておくこと	
	26~39	イテレーション2					
	40	イテレーション2動作確認会				動作確認の準備をしておくこと	
	41~54	イテレーション3					
	56~69	イテレーション3動作確認会				動作確認の準備をしておくこと	
	70~71	最終成果物発表会				発表会の準備をしておくこと	
72~75	成果物提出、納品準備				納品資料を全て作成しておくこと		
評価方法	(1)成果物提出(チーム、個人)を数回実施する。(2)レビューを数回実施する。やむをえない事情を除く不参加の場合は大幅に減点する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	成果物提出状況(チーム)		◎		○		30%
	成果物提出状況(個人)		◎		◎		30%
	レビュー				◎		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを利用する。						

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	木村 浩昌		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③ 漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2)、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3)、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4)、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5)、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7)及びSPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
15	SPI数学分野の小テスト及びSPI国語分野の復習、定期試験対策						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況の評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	ビジネスマナー						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳島 欽子		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	ビジネスシーンに必要な名刺交換、電話応対などの基本的なマナーだけではなく、冠婚葬祭や食事の仕方などのその場に応じたマナーを学ぶ。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		社会人として相応しいビジネスマナーを理解することができる。	
		○		○		社会人として必要な電話応対ができる。	
		○		○		冠婚葬祭のマナー、日常生活でのマナーを理解し実践できる。	
テキスト・教材 参考図書	入社1年目ビジネスマナーの教科書(プレジデント社・Kinoppy)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	訪問のマナー ～好印象を与える自己紹介の仕方				自己紹介ができるよう準備をすること	
	2	～好印象を与える自己紹介の仕方					
	3	基本マナー ～テーブルマナー					
	4	電話応対 ～報連相・電話応対の基本・電話の受け方の流れ・かけ方の流れ					
	5	～電話の受け方演習、取次ぎ方演習					
	6	～電話のかけ方の流れ・かけ方演習					
	7	～電話応対テスト				電話応対の流れを確認しておくこと	
	8	～電話応対テスト					
	9	冠婚葬祭 ～慶事のマナー・贈り物のマナー					
	10	～祝儀不祝儀袋の決まりごと					
	11	～弔事のマナー					
	12	～その他のマナー					
	13	基本マナー ～名刺交換のマナー・席次					
	14	～課題にて復習				全体の復習をしておくこと	
15	～組織と人間関係・総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業中に実技試験を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎		○		55%
	確認テスト	○	○		◎		25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	インターネット基礎						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	松嶋 貴志		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報工学科 4年・情報システム専攻科 3年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース3年						
授業概要	一般社団法人 全国専門学校情報教育協会主催のインターネット ベーシック ユーザー テスト (iBut) の出題範囲に準拠し、社会人として必要なインターネット社会における知識を統括的に学び、iBut試験合格を目指す。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				iBut試験で合格点を取得する。	
テキスト・教材 参考図書	「iBut」インターネットベーシックユーザーテスト テキスト 一般社団法人 全国専門学校情報教育協会						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	インターネットの基礎1					
	2	インターネットの基礎2			要点をまとめておくこと		
	3	インターネットでの被害1					
	4	インターネットでの被害2			要点をまとめておくこと		
	5	インターネット関連の法規1					
	6	インターネット関連の法規2			要点をまとめておくこと		
	7	インターネット利用者のモラル1					
	8	インターネット利用者のモラル2			要点をまとめておくこと		
	9	インターネットのしくみ1					
	10	インターネットのしくみ2			要点をまとめておくこと		
	11	コンピュータウイルス1					
	12	コンピュータウイルス2			要点をまとめておくこと		
	13	セキュリティ1					
	14	セキュリティ2			要点をまとめておくこと		
15	演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、検定試験を定期試験とみなす。(2)課題またはレポートを数回実施する。 (3)受講状況进行评估する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				50%
	課題・レポート	◎	○				30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。PCを利用する。						

科目名	モバイルプログラミング演習応用						
科目名(英)							
単位数	6単位	時間数	90時間	担当者	手嶋 隆之		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	Androidプラットフォームのアーキテクチャを理解し、開発、端末での動作確認まで一連の流れを習得する。サンプルプログラムの作成、演習課題の作成を通し、Androidアプリケーション開発に必要な知識を身に付け、作品開発とプレゼンテーションが出来るようになる。 iCDタスクコード : DV05.3.1,DV05.3.2,DV05.7.3						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				Androidの概要、Androidアプリケーションフレームワークの利用方法が理解できる。	
		○		○		AndroidSDKマニュアルを読んで、自力でアプリケーションの開発ができる。	
				○		作品のプレゼンテーションができる。	
テキスト・教材 参考図書	はじめてのAndroidプログラミング第5版(SB Creative)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-3	前期振り返り、Chapter11 スケジューラアプリを作ろう					
	4-6	Chapter11の続き、Chapter12 アニメーションするツーリスト情報アプリを作ろう					
	7-8	Chapter12の続き					
	9-11	確認テスト、AndroidStudioの便利機能				前期の内容、Chapter11、Chapter12を復習すること。	
	12-14	GoogleMapAPIを使ったアプリ開発					
	15-17	ニフクラ連携アプリ開発					
	18-20	Monacaを利用したアプリ開発					
	21-23	総合演習(アプリ企画立案)				事前にアプリ企画案を考える事。	
	24-26	総合演習(企画レビュー、設計書作成)					
	27-29	総合演習(設計書作成、設計書レビュー)					
	30-32	総合演習(開発)					
	33-35	総合演習(開発)					
	36-38	総合演習(開発)					
39-41	総合演習(開発、テスト設計書作成)						
42-45	総合演習(テスト、プレゼン)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)課題またはレポートを数回実施する。(4)受講状況进行评估する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	確認テスト	○	○				20%
	課題・レポート				◎		30%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	プログラミング基礎演習						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	西野 直幸		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科システムエンジニア専攻3年・情報工学科高度ITシステム専攻3年・ 情報システム科プログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科システムエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	既に受講済みの「プログラミング演習」を振り返り、再度Javaプログラミングの基礎を学ぶ。 Javaプログラミングの基礎文法、オブジェクト指向の基本的概念の理解から実際の開発時に使用される実践的な知識を学び活用できるようになることを目標とする。 iCDタスクコード : DV05.7.3						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				クラスや継承等のオブジェクト指向に基づく基礎的なJavaプログラムを作成できる	
		○				JavaAPI、例外処理等の実践的な機能を使ったJavaプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	① Java入門編 ゼロからはじめるプログラミング(翔泳社) ② Java実践編 アプリケーション作りの基本(翔泳社)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	Java環境構築、基本構文と制御構文の復習(変数・演算・If文)					
	2	基本構文と制御構文の復習(for文・配列)					
	3	メソッド、オーバーロード、クラス、インスタンス					
	4	コンストラクタ、クラス変数、インスタンス変数、クラスメソッド				ここまでの課題を実施する	
	5	継承、オーバーライド、継承関係とコンストラクタの動き					
	6	ポリモーフィズム					
	7	抽象クラスとインタフェース				ここまでの課題を実施する	
	8	パッケージとJavaAPI					
	9	例外処理					
	10	スレッド					
	11	コレクション				ここまでの課題を実施する	
	12	データベース接続、DML操作1					
	13	データベース接続、DML操作2					
	14	データベース接続、DML操作3				ここまでの課題を実施する	
15	総合演習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題またはレポートを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		◎				50%
	課題・レポート		◎		○		30%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	PCを利用する。						

科目名	情報処理試験対策秋対策B						
科目名(英)							
単位数	3単位	時間数	50時間	担当者	川野 啓祐		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~12	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	13~25	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない						

科目名	情報処理試験対策春対策B						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	24時間	担当者	川野 啓祐・姫野 マリ		
実施年度	2022年度	実施時期	後期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1~6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
	7-12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。			分からなかった部分の復習をしておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							